

特集 /

広川中学校の歴史

今回の特集では、卒業生やアルバムとともに広川中学校の歴史を振り返ります。

問：教育委員会事務局学校教育係 ☎ 0943-32-0093



広川中学校マスコットキャラクター
ひろっぱちゃん

1947年

3か村組合立広川中学校を設立し、各分校を置く

1948年

3か村組合立広川中学校を廃止し、各村立上広川中学校、中広川中学校、下広川中学校を設立



上広川中学校



中広川中学校



下広川中学校

1955年

町村合併により、広川町立各中学校と称する

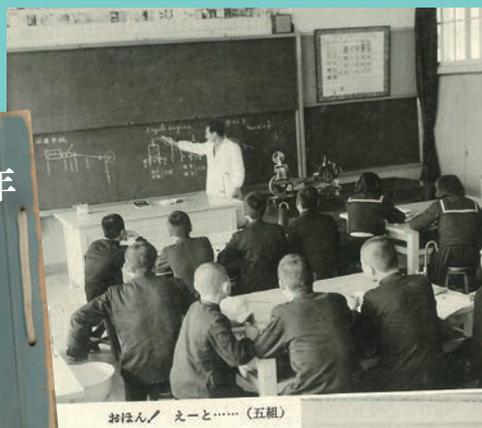
1958年

3中学校を統合して、広川中学校を新設

19学級・生徒数 888人



1959年



おはさん、えーと……(五組)



これが運動会の花形だ





綾戸 晴規 さん

AYADO HARUKI

母校である広川中学校に赴任して7年目となりました。自分が卒業した中学校で教師として働けることは、大変うれしいです。学ランだった制服はブレザーに代わり、体育館や2階建ての町民体育館はなくなりましたが、赴任してすぐ、校舎を一周すると、中学生時代を思い出しました。私が入学する前の年（1990年）に、木造平屋から建て替えられた新築の校舎。今では自分と同じように、それなりの年季が入ってきていますが、広い校舎とグラウンド、新しくなった体育館や武道場、そして昨今の少子化の中でも500人を超える生徒が

いる環境は、さまざまな経験ができる場だと感じています。

私が中学生だったころは、やんちゃな先ばいや同級生もいましたが、今は素直な子どもたちばかり。そんな広中生には「人とのつながりを大切にする生徒」「自分の考えや思いを実践できる生徒」になってほしいと願っています。特に、この2年間のコロナ禍で、大人だけでなく子どもたちもつながりが薄れ、やりたいことが満足にできない時期が続いています。そんな子どもたちのために一教員として、また、広川中学校の卒業生として、これからも誠心誠意関わっていきたいと思います。

当時の思い出と 在校生への応援メッセージ

MESSAGE

Part2 /



28年前（1994年）の卒業生で現在広川中学校の教師を務めている綾戸晴規さんと11年前（2011年）の卒業生で当時生徒会長をしていた野中季成さんに当時の様子や、在校生へのメッセージなど、お話を伺いました。



野中 季成 さん

NONAKA RISEI

11年前に広川中学校を卒業し、現在は花農家として広川町でユリを栽培しています。当時、体育館と武道場の建て替え工事が行われていたため、合唱コンクールは中広川小学校の体育館で実施していました。今ではかなり年季が入っていますが、建て替わったばかりの新しい体育館で、自分たちの卒業式をしたことを昨日のこのように思い出します。あれから11年経ちますが、当時の教頭

だった富山教育長をはじめ、お世話になった先生たちから今でも会ったときに声をかけてもらえることがとてもうれしいです。

在校生の皆さんには、しっかりご飯を食べて、睡眠をとり、いっぱい運動して「健康に」過ごしてほしいと思います。また、今しかできないことにどんどん取り組んで、中学校生活を楽しんでほしいです。



現生徒会長と校長に聞いた！

広川中学校の今とこれから

INTERVIEW



樋口 葵 さん

HIGUCHI AOI

生徒会執行部は活動の一つとして、卒業する先輩たちに感謝の気持ちを伝えるために「ありがとうの木」を製作しました。在校生や先生の協力を得て、素晴らしいものを作り上げられたと思います。4月には、新入生歓迎会の準備、進行を行いました。毎週木曜日のあいさつ運動も継続しています。加えて、毎月1日と19日に行うPTAの人たちとのあいさつ運動に合わせて、ごみ拾いを行い、皆が心地良く過ごせ

るようにしています。

今後は、体育大会や生徒総会などの行事に向けて、活発に取り組みを行っていきたいです。執行部全員で知恵を出し合い、行事の成功、充実化を目標に精一杯がんばろうと思います。また、今年度の生徒会スローガンには「貫く」を掲げ、皆が過ごしやすい学校になるよう、しっかり活動に向き合っていきます。



中園 仁彰 校長

NAKAZONO HIROAKI

広川中学校に赴任してまず驚いたのが昼休みに校庭で運動したり遊んだりしている生徒の多さと元気の良さです。はつらつとした生徒たちの姿が強烈に印象に残りましたね。それにも増して感心したのが、授業中の生徒たちの様子です。真剣な眼差しでしっかりと学習に取り組んでいる姿には、頼もしさを感じました。学校への地域の皆さんの期待や協力体勢もすばらしく、朝のあいさつ運動で校門前に立っているときに、何人もの地域の人から励ましや助言を頂いています。中学生だけではなく、小学生や高校生にも皆さんで声を掛けながら、それぞれの学校へ送り出していく光景は、朝のすがすがしい広川町の空気感をつくりだしているように感じます。

必要であると考えています。個別の状況に合わせて校内での体制を確実に・柔軟的にとること、学校以外にも外部の専門機関や教育委員会などとの連携をさらに進めることを大切にしたいです。一方で、これまで本校で進めてきた「わかる、できる授業」づくりや、「めざしたい・ありたい自分見つけ」のための道徳の学習を先生たちとじっくり取り組んでいきたいですね。生徒にとって「やりがいのある学校」「行きたいと感じる学校」づくりをめざします。

笑顔あふれる充実した生活が送れる学校にするには、メリハリのある言動がとても大事だと考えます。そのために欠かせないのが「あいさつ」ではないでしょうか。広中には、今でもこの大切なあいさつが豊かに飛び交っていますが「相手にとってうれしいあいさつ」「お互いを大切にするために必要なあいさつ」などを考えることで、今よりもっとすばらしい学校「誇れる広中」に近づいていくと確信しています。

今年4月1日付で
広川中学校に赴任。



現在「不登校児童生徒」の増加が、全国・県でも課題となっており、本校でも同様の状況にあります。一言で不登校と言ってもその原因はさまざまであり、根本的な解決には慎重な対応が



2011年

